



アドビ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー

アドビ、Adobe Sensei AI で PDF のアクセシビリティを拡大

- AI を活用した「Adobe PDF Accessibility Auto-Tag API」などの新機能により、デジタル文書のアクセシビリティ向上プロセスを自動化
- 金融、教育、公共機関における早期の利用層では、コンプライアンスを強化し、より良い体験を提供しながら、時間とコストの大幅な削減を実現
- 全世界で 3 兆以上の PDF 文書が流通

※当資料は、2023 年 5 月 17 日に米国本社から発表された[プレスリリース](#)の抄訳です。

【2023 年 5 月 18 日】

アドビ (Nasdaq: ADBE) (本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ) は、アドビの AI および機械学習フレームワークである「Adobe Sensei」を活用した新しい「Adobe PDF Accessibility Auto-Tag API」を発表しました。全世界で 3 兆作成されているとも言われる PDF 文書は、デジタル社会の基盤を支えるフォーマットです。アドビの新たな API は、PDF コンテンツの変換プロセスを簡素化、高速化することで、企業が数時間、数日、あるいは数週間もの時間と数百万ドルものコストを削減しつつ、法令順守を向上し、より良い従業員と顧客体験を提供できるよう支援いたします。

Adobe Document Cloud のプロダクトマーケティング担当 バイスプレジデントである Todd Gerber (トッド ガーバー) は次のように述べています。

「複雑な法的合意文書や契約書から住宅ローン書類や学校の許可証にいたるまで、デジタル文書をできるだけ多くの人にとってアクセシブル (利用しやすい環境) にすることは、デジタル文書の利便性を向上させるだけでなく、グローバルな競争を望む企業にとって法律面でもビジネス面でも必要なことです。10 年にわたる当社の責任ある AI 開発や導入の経験を活かし、組織の誰もがアクセス、理解できるよう支援する AI 搭載の新機能を発表できることをうれしく思います。」

現在作成されている何兆もの PDF 文書は、その 90%以上に白紙や不鮮明な箇所、テキストの歪みなどが見られ、障がいを持つユーザーにとっては利用しやすいものとは言えません。政府の規制強化とユーザ

一体験への期待が高まる中で、アクセシブルな顧客体験や仕事体験は、すべての企業にとってさらに重要な要素となってきています。

AIでアクセシビリティを加速

これまで、PDF 文書をアクセシブルにするためには、長時間のトレーニングや経験を有する担当者が、時間をかけて手作業で PDF 文書に手を加えてきました。アドビの新しい API をいち早く採用した企業は、現在、同プロセスの 70~100%を自動化し、各ファイルを完全にアクセシブルにするために費やす時間を最大 100%削減しています。新 API の影響力は、複雑な文書になるほどその威力を発揮します。例えば、あるグローバルな金融会社は、以前は個々のプレゼンテーションのスライドをアクセシブルにするために 9 時間以上かけていましたが、アドビの新しい API により、そのプロセスの 70~80%を自動化することができました。

サンノゼ州立大学 eCampus シニアディレクターの Jennifer Redd（ジェニファー レッド）博士は次のように述べています。

「テクノロジーは、私たちのコミュニティの誰もが電子情報に接し、デジタル経済に参加できるようにする可能性を秘めています。デジタルコンテンツを作成・消費する誰もがより簡単に利用できる、この新しい PDF Accessibility Auto-Tag API やその他のアドビソリューションを引き続き活用していくことを楽しみにしています。」

デジタル文書のアクセシビリティを革新

アドビの新しい PDF Accessibility Auto-Tag API は、Sensei を活用して、PDF のコンテンツ構造へのタグ付けプロセスを自動化、拡張します。API は、見出し、段落、リスト、テーブルなどの構造を「タグ付け」または識別し、スクリーンリーダーなどの支援技術に適した正しい読み上げ順序を指示します。これにより、視力障害、弱視、失読症といったさまざまな障害を持つ人々がデジタル文書をより簡単に操作できるようになります。企業の開発担当者は、既存 PDF の大量のバックログにこの API を適用することで、時間と予算を削減するとともに、最新のアクセシビリティ規制へ準拠させることも可能となります。

また、アドビはこの秋リリース予定の 2 つの追加機能も発表します。API を介して Acrobat で利用できる「PDF Accessibility Checker (PDF アクセシビリティチェッカー)」は、既存 PDF のアクセシビリティを規模に応じて迅速かつ容易に評価することを可能とします。また、Acrobat Reader に Auto-Tag を適用することで、すでに Reader をご利用のお客様は、追加費用や別途プラグインやダウンロード無しで、よりアクセシブルな閲覧体験を得ることができるようになります。

コミュニティとの連携でアクセシビリティを向上

アドビはデジタルドキュメントカテゴリーの先駆者であり、PDF フォーマットを開発し、それを世界中にオープンソースとして提供しました。当初から、アドビはアクセシビリティのメタデータを保存するための専用タグを文書に作成し、Adobe Acrobat 内で直接スクリーンリーダーのサポートを可能にするなど、アクセシビリティを PDF の DNA に組み込んできました。アドビは何十年もの間、PDF のアクセシビリティを革新し続け、Acrobat の機能として、文書読み上げや Sensei を搭載した Acrobat Reader Mobile 向けの [Liquid Mode](#) のリーダビリティ（可読性）機能などを導入してきました。

昨年、アドビは[リーダビリティ コンソーシアム](#)を設立し、セントラルフロリダ大学、Readability Matters、Google と協力して、デジタル読解力をすべての人に公平に提供するための支援を行っています。アドビの研究者たちは、絶えず研鑽し、共有することで、リーダビリティの科学を進歩させ続けています。Document Cloud 研究チームはこのほど、[2つの新しい論文](#)を発表しました。この論文は、個人の読書体験をより快適で楽しいものにするための、代替デジタルリーディングフォーマットと顧客インターフェースの設計に焦点を当てたものです。

アドビについて

アドビは、デジタル体験を通じて世界を変えていきます。詳しくは、www.adobe.com をご覧ください。

###

© 2023 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.